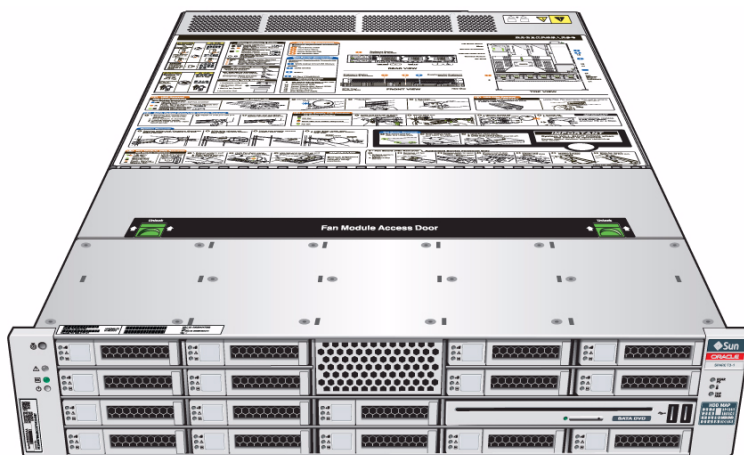


SPARC T3-1 サーバー

ご使用の手引き

このマニュアルでは、インストール済みの Oracle Solaris オペレーティングシステム (Oracle Solaris OS) をはじめて使用して Oracle の SPARC T3-1 サーバーの電源を入れ、起動するための最小限の手順について説明します。

図 1 SPARC T3-1 サーバー



出荷パッケージの内容

数量	アイテム
1	サーバー
1	RJ-45/DB-9 アダプタ (クロス)
1	リストストラップ
1 または 2	電源コード (数量はご注文の PSU の数による)
該当なし	他のオプション部品*

* 一部のオプション部品は、サーバーに同梱されていない場合があります。サーバーのインストールおよびセットアップに必要なオプション部品が届いているか、注文書の項目リストを確認してください。

始める前に

はじめてサーバーを設定する前に、次の点を確認してください。

- **指示が出るまで電源を入れない** – このシステムには、ホストサーバーの構成および起動に使用するサービスプロセッサ (Service Processor, SP) が搭載されています。ホストサーバーを適切に設定し SP メッセージが表示されるようにするには、このマニュアルで説明するように、SP とホストのネットワーク接続を行うまで、サーバーに AC 電源を入れないでください。
- **状況に最適な手順を選択する** – このマニュアルの簡易設定手順はどのようなネットワーク環境にも有効で、シリアルポートへの接続手段として端末デバイスを必要とします。ネットワーク環境で DHCP が動作している場合は、Ethernet 管理ポートを使用してシステムを構成することができます。DHCP セットアップメソッドの利点を活かすために、次に示すオンライン製品のドキュメントセットを参照してください。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.1#hic>

- **十分な時間を確保する** – 設置に要する時間はさまざまですが、この設定手順をはじめて実行する場合は、すべての手順が完了するまで 45 ～ 75 分の所要時間を見込んでください。オプションのハードウェアおよびラック搭載キットを取り付ける場合には、さらに時間を要することもあります。
- **端末デバイスを入手する** – ラックに搭載可能なこのサーバーの構成は、組み込み型のシリアルポートとネットワーク管理ポートを使用して SP を介して行います。グラフィカルインタフェースおよび Sun のキーボードは使用しません。SP と通信するためには、端末、端末サーバー、または端末エミュレーションソフトウェアを実行するラップトップなどの端末デバイスが必要です。
- **構成情報を収集する** – 構成時に、使用する環境のタイムゾーンおよびネットワークパラメーターの入力を求めるプロンプトが表示されます。表 1 を使用して設定情報を記録してください。

表 1 設定情報


パラメータ	説明	入力内容
Language	表示された言語の一覧から番号を選択します。	
Locale	表示された地域の一覧から番号を選択します。	
Terminal Type	使用している端末デバイスに対応する端末のタイプを選択します。	
Network?	「Yes」を選択します。	
Multiple Network Interfaces	構成する予定のネットワークインタフェースを選択します。構成するネットワークインタフェースが不明である場合は、一覧の先頭のネットワークインタフェースを選択します。	
DHCP?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。	
Host Name	サーバーのホスト名を入力します。	
IP Address	選択した Ethernet インタフェースに IP アドレスを入力します。	
Subnet?	使用しているネットワーク環境に応じて、「Yes」または「No」を選択します。	
Subnet Netmask	Subnet? で「Yes」を選択した場合は、使用しているネットワーク環境のサブネットのネットマスクを入力します。	
IPv6?	IPv6 を使用するかどうかを指定します。IPv6 を使用するかどうか不明である場合は、「No」を選択して IPv4 用の Ethernet インタフェースを構成します。	
Security Policy	標準の UNIX セキュリティー (No) または Kerberos セキュリティー (Yes) のいずれかを選択します。セキュリティが不明である場合は、「No」を選択します。	
Confirm	画面上の情報を確認し、必要に応じて変更します。それ以外の場合は、処理を続行します。	
Name Service	使用しているネットワーク環境に応じて、ネームサービスを選択します。 注 – 「None」以外のネームサービスを選択すると、追加のネームサービスの構成情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。	
NFSv4 Domain Name	使用している環境に応じて、ドメイン名構成のタイプを選択します。ドメイン名構成が不明である場合は、「Use the NFSv4 domain derived by the system」を選択します。	
Time Zone (Continent)	該当する大陸を選択します。	

表 1 設定情報 (続き)

Time Zone (Country or Region)	該当する国または地域を選択します。	
Time Zone	タイムゾーンを選択します。	
Date and Time	デフォルトの日付と時刻を受け入れるか、値を変更します。	
root Password	root パスワードを 2 回入力します。このパスワードは、このサーバーの Oracle Solaris OS のスーパーユーザーアカウント用です。このパスワードは、SP のパスワードではありません。	


簡易設定手順

設置および構成の簡易手順は、次のとおりです。

1. サーバーの梱包を開き、出荷パッケージの内容がすべてそろっていることを確認します。 

2. 確認のためにサーバーを設置予定の場所に置きます。

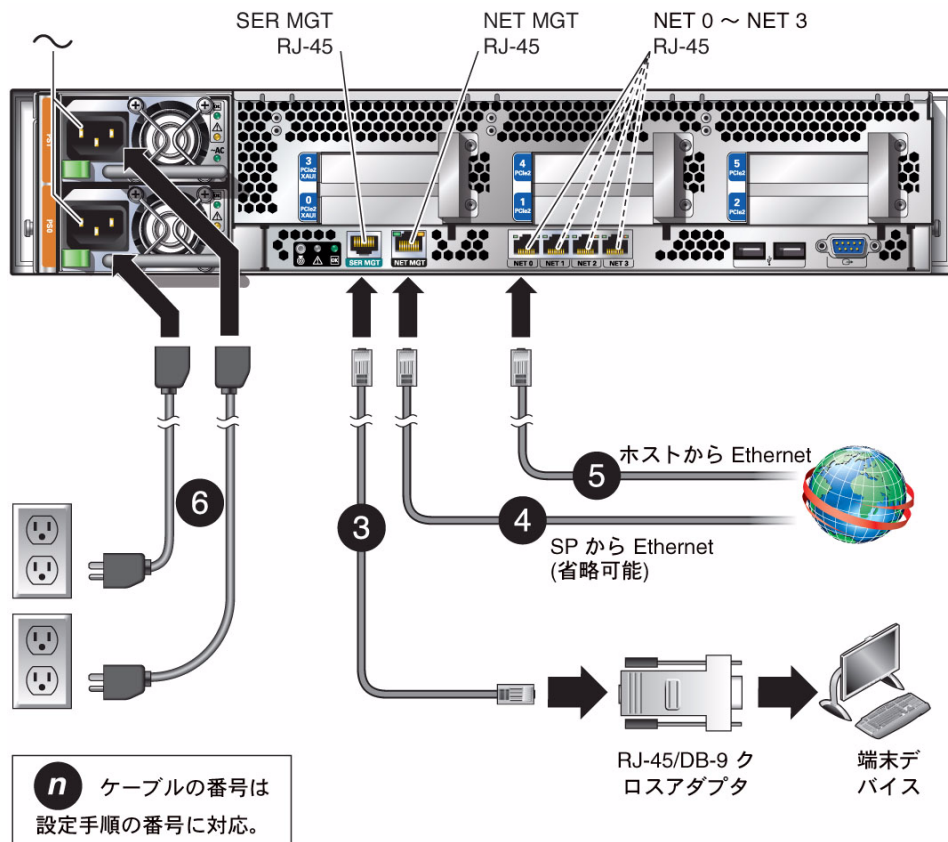
ラックに搭載の手順については、レールキットに付属している手順書、サーバーの保守ラベル、およびオンラインの『SPARC T3-1 サーバー設置マニュアル』を参照してください。

3. サーバーの SER MGT ポート () と端末デバイスを、シリアルケーブルで接続します。

この接続で、SP との最初の通信が行われます。

このデバイスの通信設定は、9600 ボー、8 ビット、パリティなし、1 ストップビットにします。ヌルモデム構成が必要です。つまり、DTE 間の通信で送受信の信号が逆になるようにクロスされます。標準の RJ-45 ケーブルとともに付属の RJ-45 クロスアダプタを使用して、ヌルモデム構成を実現できます。

図 2 サーバー接続



4. (省略可能) サーバーの Net MGT ポート (図 2) と、SP およびホストにあとで接続されるネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
SER MGT ポートを使用してシステムの初期構成を行なったあと、通常、SP およびホストとの通信はこの Ethernet インタフェースを介して行われます。
5. サーバーの NET ポート (図 2) の 1 つと、サーバーが通信するネットワークとを、Ethernet ケーブルで接続します。
6. 電源コードを電源装置および別個の電源に接続します。
サーバーに電源装置が 2 箇所ある場合、別々の電源に接続してください。これにより、システムでの電源の冗長化が実現します。システムは 1 つの電源の接続で動作しますが、その場合は冗長性が除かれます。
電源が接続されると、SP が初期化され、電源装置 LED が点灯します。数分後、SP ログインプロンプトが端末デバイスに表示されます。ホストはまだ初期化されておらず、電源も入っていません。

7. 端末デバイスで、パスワード `changeme` を使用して、`root` として `SP` にログインします。

```
SUNSP-0921EA0008 login: root
Password: changeme
. . .
->
```

しばらくすると、`SP` プロンプト (`->`) が表示されます。

この時点で、`Integrated Lights Out Manager` インタフェースを使用して実行できるコマンドは多数あります。たとえば、`admin` という名前のユーザーを作成し、`admin` のアカウントロールを `Administrator` に設定するには、次のように入力します。

```
-> create /SP/users/admin role=cuar
Creating user...
Enter new password: *****
Enter new password again: *****
Created /SP/users/admin
```

この例のアスタリスクで示された部分は、実際にパスワードを入力する際には表示されません。

パスワードの変更方法、`SP` ネットワークパラメーターの設定方法など、その他の `SP` に関する情報はオンラインドキュメントセットで参照できます。

8. サーバーの電源を入れ、ホスト出力をシリアル端末デバイスに表示するようにリダイレクトします。

```
-> start /SYS
Are you sure you want to start /SYS (y/n)? y
-> start /HOST/console
Are you sure you want to start /HOST/CONSOLE (y/n)? y
Serial console started.
. . .
```

`HOST` コンソールを起動したあと、サーバーの初期化が完了するまでに約 20 分かかります。

9. プロンプトが表示されたら、画面上の手順に従って構成情報を入力します。

設定情報と入力内容の一覧については、[表 1](#) を参照してください。構成の確認を求めるプロンプトが数回表示されるため、そこで確認と変更を行うことができます。特定の値に応答する方法が不明である場合は、デフォルトを受け入れて、あとで `Oracle Solaris OS` が実行しているときに変更することができます。

構成メニューを完了するとサーバーが再起動され、`Oracle Solaris` ログインプロンプトが表示されます。

10. サーバーにログインし、機能を調査します。

次のコマンドでは、システムについての情報が提供されます。

- `showrev` – ホスト名およびシステムアーキテクチャー情報を表示します。このコマンドに `-a` オプションを指定すると、インストールされているパッチを確認できます。
- `psrinfo` – ホストのプロセッサおよびコアの番号と状態に関する情報を表示します。

詳細は、`Oracle Solaris OS` のマニュアルページおよびドキュメントを参照してください。

製品ドキュメント

次の Web サイトでは、ローカライズ版を含むさまざまな Sun ドキュメントを表示、印刷、購入できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sparc.t3.1#hic>

技術サポート

このマニュアルに記載されていない技術的な問い合わせについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

ドキュメントのフィードバック

ご意見は、次の Web サイトで「Feedback[+]」リンクをクリックしてお送りください。

<http://docs.sun.com/>

ご意見とともに、ドキュメントのタイトルと Part No. をお知らせください。

『SPARC T3-1 サーバーご使用の手引き』、Part No. 821-2873-10

Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

